



## JANES Newsletter No.26-1

日本ナイル・エチオピア学会

2018年10月8日

### 1. 巻頭言-『ゴールデンカムイ』と言語の再生-

柘植洋一  
金沢大学名誉教授

## 目次

1	巻頭言	1 頁
2	ナイル・エチオピア地域 現地・渡航情報	2 頁
3	学会動向	4 頁
4	会員の異動	5 頁

『ゴールデンカムイ』という作品がある。日露戦争後の北海道を舞台にしたコミックで、TVアニメとしても放映されている。なによりストーリーが面白いが、当時のアイヌの人々の生活を丁寧に描いていることも大きく評判になっている。私には、特に、優れたアイヌ語研究者がアイヌ語表現の監修に当たっていることも大いに意義のあることと思われる。

アイヌ語はモノリンガル話者はもちろん、通常の意味での母語話者はほとんどいないようであるが、現在、さまざまな形でその復興・再活性化が進められている。上記の研究者は、今は一言も話せなくても、アイヌ語を自分のアイデンティティと結びつけ、自分のものとして考える言葉とする人々を育てる姿勢が大事だと指摘する。『ゴールデンカムイ』が注目されることは、その動きに寄与するところも多いだろう。

エチオピアでは、前世紀末に初めて報告がなされたオンゴタ語をはじめとして、消滅の危機に瀕している言語が10以上あるといわれている。近年、多くの言語が文字を持つようになり、教育の場面で採用されるといった状況が生み出されている一方で、話者数も極めて少ないこれらの言語では維持、復興、再生への道は残念ながら厳しいだろう。そこで言語学に関わる私たちに出来ることは、さまざまな面から記録・研究し、その姿をきちんととらえることだけであろう。アイヌ語の再生においても、こうした仕事の蓄積が大きな基盤を提供しているのである。

## 2. ナイル・エチオピア地域 現地・渡航情報



- I. エチオピアの最近の動向
- II. 『アフリカで安全にフィールドワークするためにーエチオピア編』について
- III. エチオピアビザおよび滞在許可書の手続き
- IV. 国際エチオピア学会終了

### I. エチオピアの最近の動向

2018 年 4 月 2 日、アビー・アハメド (Abiy Ahmed) 氏がエチオピアの首相に就任しました。就任後、アビー首相は、さまざまな改革に迅速に取り組んでいます。5 月には、政治犯として捕らえられていた人々を釈放し、その後、2018 年 2 月に発令された非常事態宣言を 2 ヶ月早く (6 月 5 日に) 解除しました。6 月末には、エリトリアとの外交関係の再開のため、エリトリアと公式協議を始め、7 月 18 日にはエリトリア首相とともに「平和および友好関係に関する共同宣言 (Joint Declaration of Peace and Friendship)」を行いました。9 月 11 日には、エチオピアとエリトリアとの間の国境の往来を再開しています。その一方で、デモ、暴動、道路封鎖なども頻発しています。2018 年 4 月よりも以前に頻発していたデモや道路封鎖と、4 月以降のそれでは、その目的が異なりまた多様化している側面があると考えられます。渡航中は、情報収集を怠らず人が集まるところへ近づかないことを強くすすめます。

外務省：エリトリアとの外交関係再開までの経緯

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/danwa/page4\\_004199.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/danwa/page4_004199.html)

(金子守恵会員)

### II. 『アフリカで安全にフィールドワークするためにーエチオピア編』について

2016 年度より京都大学アフリカ地域研究資料センターがシリーズで刊行している『アフリカで安全にフィールドワークするために』エチオピア編が 2018 年 3 月に発行されました。本冊子は、京都大学全学経費「海外調査における安全確保・緊急時対応に関する行動計画検討プログラ

ム」によって出版されました。この冊子では、学術調査のためのビザ取得手続きや在留届、滞在許可書の手続きなどの基礎的な情報や、感染症や予防に関する情報がコンパクトにまとめられています。エチオピアで長期間にわたって調査研究を進める院生、研究員、教員が情報を提供したものです。非売品ですが、ご希望の方は問い合わせ email アドレス (caas@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp) へご連絡ください。



(金子守恵会員)

### III. エチオピアビザおよび滞在許可書の手続きについて

昨年度 (2017 年度) 1 年間かけて、滞在許可書の取得手続きがほぼ確立しましたが、『アフリカで安全にフィールドワークするためにーエチオピア編』、2018 年 8 月に入り、その手続きの仕方が大幅に変更される事例が発生しました。アジスアベバ大学エチオピア研究所 (IES) で手続きを進める方は、次の手続きをとります (2018 年 9 月 12 日時点)。





(1) IES に客員研究者としての登録手続きを行う(登録料支払い)(2)滞在許可書取得のためレターをアジスアベバ大学より発行してもらう(3) IES のスタッフとともに労働省へ行き、調査研究による滞在が労働許可の対象ではないことを証明してもらうレターを発行してもらう。その際アジスアベバ大学から発行されたレターのほか、必要書類(パスポート、パスポートコピー、発給されているビザ頁のコピー)を持参する。(4)労働省からレターを受けとったら、IES のスタッフとともに、イミグレーションオフィスへ行き、次の必要書類を提出し(大学からのレター、労働省からのレター、パスポート、指定の申請書(イミグレーションオフィスにあり)、登録料 1500ETB、更新の場合は過去に発行されたレジデント ID)、手続きを進める。労働省もイミグレーションオフィスのスタッフも、この手続きに慣れていないため、エチオピアでの受け入れ機関のスタッフに同行してもらうことを強くすすめます(9 月 12 日時点)。アムハラ語ができる、もしくはできないに関係なく、外国人研究者が一人でそれぞれのオフィスへ行っても手続きが進みませんのでご注意ください。

(金子守恵会員)



写真：第 20 回国際エチオピア学会において、コーヒーブレイク中に Dawro の人びとによる楽器演奏がおこなわれた (2018 年 10 月 1 日)

#### IV. 国際エチオピア学会終了

国際エチオピア学会が 10 月 1~5 日までメケレ大学にて開催されました。約 700 題の発表が 13 分野 106 パネルのいずれかにおいて受け付けられました (9 月 24 日時点)。下記のサイトでプログラムを確認できます。次回第 21 回大会は、アジスアベバにて開催予定です。

国際エチオピア学会プログラム  
<http://www.ices20-mu.org/program.php>

(金子守恵会員)

## 3. 学会動向



### I. 2018年度総会報告

2018年4月22日(日)東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所において、日本ナイル・エチオピア学会2018年度総会が開催されました。

総会では、2017年度事業報告、2017年度会計報告および会計監査(会計監査:斎藤直樹会員、梅屋潔会員)について報告がありました。続けて、2018年度事業計画および予算についての報告もありました。2017年度事業報告および2018年度事業計画については6-7頁(資料1,3)を参照してください。

第28回学術大会が2019年4月20-21日に京都大学が主催して開催されることが報告されました(8頁、資料5)。また、第24回高島賞受賞対象著書として、田中利和会員の「エチオピアウォリソにおける農耕民の足を護る地下足袋の生産と普及に関する実践的地域研究活動」が石川博樹評議員の推薦を受け、審査を経て、高島賞受賞に値するという結果が報告されました(8頁、資料6)。JANES ニュースレターNo.26-3で審査結果報告および受賞記念講演について報告します。



写真：高島賞を受賞した田中会員と重田学会長

### II. 公開シンポジウム(講演会)

2018年4月21日(土)東京外国語大学において第27回学術大会公開講演会が開催されました。今回の公開シンポジウム(講演会)は、「食と農が支えたナイル・エチオピア地域の歴史と文化」という総合テーマで、3人の講演者の方をお招きして開催しました。講演タイトルは以下のとおりです。

講演1「エジプトはナイルの賜物: ナイル・エチオピア地域の特殊性を土壌学から考える」柴田誠氏、新潟食料農業大学



写真：総合討論で壇上にあがり質問に答えるシンポジウム・パネリスト

講演2「東アフリカ大湖地方の食と農: ウガンダにおけるバナナの過去と現在」佐藤靖明会員、大阪産業大学

講演3「エチオピアの食と農: ユニークな作物とその発酵食を中心に」藤本武会員、富山大学

コメント 石川博樹会員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

### III. 学術大会報告

4月22日(日)は、公開講演会と同じ会場において、第27回学術大会が開催され、10人の会員が口頭発表を、11人の会員がポスター発表をおこないました。

発表タイトルと発表者は、次のとおり(敬称略)。

・口頭発表

■「文化翻訳としての無形文化遺産: エチオピアのガダ体系を事例とし」(田川玄) ■「The Social Matrix of Municipal Solid Waste Management in Addis, Ethiopia」(Haregewoin Bekele) ■「エチオピア西南部マーレにおける子どもの遺棄と保護」(有井晴香) ■「Photo for Cash, is it a Dilemma between the Pursuit for Livelihood and a Cultural Commodification?: The Case of South Omo Zone, SNNPR, Ethiopia」(Azeb Girmai) ■「マスカン語のDifferential Object Markingに関する一仮説」(原将吾) ■「廃棄物をめぐるマテリアリティ: エチオピア西南部における使い終えたノートのあつかわれ方に注目して」(金子守恵) ■「ハルツームにおける環境NGOの行動様式と廃棄物問題」(金森謙輔) ■「エチオピア・オロミア州ボレナ県における持続可能な開発のための参加型の試み: 「住民関与」から「住民による開発」へ」(島津英世) ■「ロンドンのソマリランドコミュニティ団体からみる、移り住んだ地での人々のつながり」(須永修枝) ■「Elderly, Spiritualism and Social Power among Buhororo Tribal Societies, Uganda」(Karusigaria Ian)。



写真：最優秀発表賞に選ばれたハレグウォイン会員が口頭発表する様子



#### ・ポスター発表

■「エチオピア国立劇場における新たな舞踊表現の創造に関する考察:新演目「シダマ(Sidama)」の導入過程を事例として」(相原進) ■「暮らしのなかの健康:エチオピア・アムハラ州の農村における食に着目して」(上村知春) ■「エチオピア・メケレにおける集落のアーバナイズーション:インダ・メスケル地区を事例として」(清水信宏) ■「導入作物バシユカラの受容と栽培:エチオピア南部ガモ地域におけるライコムギの事例」(下山花) ■「EthioTabiの創造に関する実践的地域研究②:ウォリソにおける地下足袋の製作に関する課題」(田中利和) ■「漁民とジュゴンの共存型海洋保護区にむけて:スーダン紅海北部ドンゴナーブ湾の漁撈活動」(中村亮) ■「紅海沿岸における黒サンゴ採取の現状と課題:エジプト、サウディアラビア、スーダンの事例から」(縄田浩志) ■「Some Aspects of Socioeconomic Characteristics of the Fisheries in the Northern Sudanese Red Sea Coast」(縄田浩志他) ■「1970年代初頭に日本人WHO職員が探検したエチオピア北部」(増田研) ■「エチオピアの首都アジスアベバの革靴製造業における生産工程の組織」(松原加奈) ■「共によい土にする:エチオピア中央高原ウォリソにおける有畜農耕の民族土壌学研究」(八下田佳恵)。

最優秀発表賞(口頭発表)には、ハレグウォイン・ベケレ会員(京都大学)が、最優秀発表賞(ポスター発表)には、上村千春会員(京都大学)が選ばれました。ハレグウォイン会員と上村会員には、JANES ニュースレターNo.26-2に寄稿していただく予定です。

## 4. 会員の異動 (2017年1月- 2018年3月31日)

#### ・入会者(氏名・入会年・所属)

##### 【一般会員】

高橋 洋成・2018年・東京外国語大学  
脇 正義・2018年・陸上自衛隊

##### 【学生会員】

金森 謙輔・2018年・京都大学  
アゼブ・ギルマイ・2018年・京都大学  
須永 修枝・2018年・東京大学  
ハレグウォイン・ベケレ・2018年・京都大学

#### ・退会者(氏名・退会年)

村治 笙子・2017年  
箱山 富美子・2017年  
堀 信行・2017年  
乾 岳志・2017年  
河内 一博・2017年  
山森 哲史・2017年  
川床 睦夫・2017年  
池上 甲一・2017年  
佐藤 寛・2017年  
竹中 浩一・2017年  
松田 凡 2017年

#### 編集後記

2018年度第1号の配信が、例年よりも2ヶ月ほど遅れてしまいましたことお詫び申し上げます。2018年4月よりエチオピアの新首相にアビー氏が着任しました。2018年8月にエチオピアに滞在した際に、多くの友人たちが、アビー首相の着任について、たいへん誇らしげにまた期待をこめて話をしてくれていたのが印象的でした。それと同時に、4月から政治的に不安定な状況が続いています。渡航される際には、どうか十分な情報収集をおこなってください。

今年度も、編集委員を中心に、会員の方にもご協力いただきながら、できる限り最新の情報を会員のみなさんへお届けするようにいたします。2018年度も日本ナイル・エチオピア学会ニュースレターをよろしく願います。(MK)

- ・ 1 頁目写真上: 第20回国際エチオピア学会 メケレ大学(撮影:2018年10月、金子守恵)
- ・ 2 頁目写真上: エチオピア南部(撮影:2018年8月、金子守恵)
- ・ 3 頁目写真すべて: 第20回国際エチオピア学会 メケレ大学(撮影:2018年10月、金子守恵)
- ・ 4 頁目写真すべて: 撮影者 松波康男

JANES ニュースレター No.26-1

2018年10月8日配信

編集・配信: 日本ナイル・エチオピア学会

編集委員: 金子守恵、佐藤靖明  
佐藤美穂、村橋勲

## 資料 1

### 2017 年度事業報告（案）

- (1) 公開シンポジウム『アフリカと日本の無形文化遺産～保護・継承・発展にむけて～』  
2017 年 4 月 15 日（土）、富山大学人文学部第 6 講義室
- (2) 第 26 回学術大会  
2017 年 4 月 16 日（日）、富山大学人文学部第 3 講義室
- (3) 第 26 回学術大会最優秀発表賞の授与  
発表演題 「ティグライ地方の伝統的な集落形成とメケレの都市形成」清水信宏（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科・日本学術振興会特別研究員（DC））
- (4) 第 23 回高島賞の授与  
野口真理子「エチオピア西南部アリ農村における高齢者の生活を支える社会関係」『アフリカ研究』90 号 71-83 頁、2016 年
- (5) 学会誌の発行・編集  
Nilo-Ethiopian Studies No.22 の編集・発行・発送、No. 23 の編集
- (6) ニュースレターの発行・編集  
JANES ニュースレター25-1 号、25-2 号、25-3 号の編集・発行
- (7) 会費請求  
2017 年度学術大会会場において参加会員に請求した。また 2017 年 6 月に請求書を送付した。

2018 年度事業計画（案）

- (1) 公開シンポジウム「食と農が支えたナイル・エチオピア地域の歴史と文化」  
2018 年 4 月 21 日（土）、東京外国語大学アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール
- (2) 第 27 回学術大会  
2018 年 4 月 22 日（日）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）
- (3) 第 24 回高島賞の選考
- (4) 学会誌の編集・刊行  
*Nilo-Ethiopian Studies* No.23 の印刷・発送および No. 24 の編集・印刷・発送
- (5) ニュースレターの編集・公開  
JANES ニュースレター 26 号の編集・公開
- (6) 会費請求  
2018 年度学術大会会場において参加会員に請求する。また 2018 年 6 月に請求書を送付する。
- (7) 評議員選挙の実施
- (8) 学会ウェブページの再構築

## 資料 5

### 第 28 回学術大会（2019 年度）の開催について

開催日：2019 年 4 月 20-21 日

受 入：京都大学

### 第 29 回学術大会（2020 年度）の開催について

開催日：

開催地：

## 資料 6

### 高島賞の選考について

日本ナイル・エチオピア学会高島賞第 24 回受賞候補として、石川評議員より 1 件の推薦を受け、これについて湖中真哉会員（選考委員長）、設楽知弘会員（選考委員）、利根川佳子会員（選考委員）の 3 名が審査をおこなった。その結果、田中利和会員の「エチオピア・ウォリソにおける農耕民の足を護る地下足袋の生産・普及に関する実践的研究活動」について受賞に値するとの報告を受けた。